

# ブランド米を田植え

## 千種の小中高生59人体験

### 粟

安粟市千種町の千種小、千種中、千種高の児童・生徒計59人が、同町千草の水田で田植えに励んだ。地元ブランドの「コシヒカリ」ちくさの舞」と同じ育て方を採用し、秋に刈り取る予定。子どもたちは泥に足を取ら

れながらも、等間隔に苗を植えていった。

千種高は2017年から、休耕田(約8㌥)で米作りを始め、近年は小中学生も参加する。収穫した米は20、21年の全国コンテストで上位入賞も果たしている。今回は千種小5年生

9人、千種中3年生15人、千種高1年生35人が取り組んだ。苗や肥料はJAFハリマが無償で提供したとい

う。参加者は1列に並び、転びそうになりながらも丁寧に苗を植えた。泥の感



水田で田植えをする千種小、千種中、千種高の児童・生徒たち。安粟市千種町千草。

触や水田の生き物に歓声を上げ、作業を終えた後は晴れやかな笑顔を浮かべた。

千種小の茶谷雄大君(10)は「暑かったけど、ちゃんと植えることができた」とにっこり。千種中の鎌田空さん(14)は「田んぼに素足で入って、新鮮な体験だった」と汗をぬぐった。

今後、水の管理や除草作業は千種高の1年生が担う。同高の岸元陽紀さん(15)は「地元で誇れるぐらゐの米に育てたい」と話した。

(村上晃宏)